

## 日本語の再発見

## ラテン化運動

我が国でも、明治時代、漢字を廃止してローマ字を採用しないと、西欧の文化を吸収する事が出来ないし、追いつくことが出来ない、といふ意見があったが、西欧の強い圧迫を受けてみた中国では、その意見が一層強かったのは当然であらう。

「中国が二十世紀の世界に生き残るためには、儒学を廃し、道教を滅すことが絶対に必要であり、そのためには、漢字を廃止することが先決問題である」といふやうな意見が盛んに唱へられた。

確かに、中国の漢字は、発音符号が無い上に、発音が地方によって実に様々である。だから、学習し難いことはよく解る。とは言へ漢字を憎んで、三千年にわたる文化を否定する、といふのは明らかに行き過ぎであらう。

ところが、日華事変を契機に、「民族意識を高揚させるためには、文盲を絶滅させ、教育を普及することが何よりも必要である」と考へられ、ラテン化運動が各地に起り、盛んに研究されるやうになった。

中でも、最も熱心だったのは、毛沢東の根拠地である延安であった。ラテン化新文字を普及することにより、文盲を一掃しようと考へたのである。しかし、この運動は、熱心に且、強力に実践されたが、数年で“識字

運動”に切り替へられる事になった。

“識字運動”とは、ラテン化運動が盛んになる以前に、「一千字の漢字習得を目標とする運動」として進められてみたものである。指導者たちの意図に反して、農民たちは、易しいラテン化文字よりも難しくても漢字を学習したかったのである。

毛沢東に限らず、指導者といふものは、とかく大衆を見縊って過ちを犯すことが多い。ラテン化運動を識字運動に切り替へたのは正しかったけれども、その漢字は、正漢字は難しからうといふ事で“簡体文字”を与へたのである。今、大陸の中国では、この簡体字を学習させられてゐるが、大衆は果してこの文字を学びたがってゐるのであらうか。それとも、伝統的な正漢字を学びたがってゐるのであらうか。